

平成23年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 202

政策体系	41	事業分類	ソフト事業	所管部局	市民部 市民課
会計	一般会計	科目	3. 民生費 - 1. 社会福 - 2. 地域セ 現年		
事業名	地域交流活性化支援事業				
細事業名	文化センター地域交流活性化支援事業				
				評価表作成者	市民福祉部 市民課 今西 良匡

1. 事業の概要

市民のニーズや動向を的確に判断し、講座の開設及び文化祭を通して、地域文化を継承。

2. 事業の目的と必要性

① 施策で目指す目標との関連付け

地域及び周辺地域の住民の社会的、経済的、文化的向上を図り、生活上の課題やさまざまな人権課題の解決に資するために講座の開設、就労相談等さまざまな相談事業や生活改善事業を実施。

② 事業を実施する必要性

地域及び周辺地域の住民の社会的、経済的、文化的向上と人権問題の早期解決のために必要。

3. 事業費の推移

	単位	平19決算	平20決算	平21決算	平22決算	平23予算	平24計画	平25計画
決算額または計画額	千円	757	728	763	742	758	757	757
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	28	34	33	34	34
	国・府支出金	千円	0	350	364	355	323	325
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	757	350	365	354	401	398
職員等の従事人員	人/年	—	0.20	0.13	0.15			
人件費	千円	—	1,171	1,092	1,211			
事業費総額	千円	—	1,899	1,855	1,954			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

講座開催事業	600,000円（講師料等）
文化祭開催	30,000円（報償費）
	112,495円（消耗品等）

5. 事業結果の概要

文化スポーツ交流事業			
仁江	生花教室	12回	延べ60人
埴生	生花教室	24回	延べ120人
	書道教室	24回	延べ168人
半田	生花教室	12回	延べ50人
	書道教室	24回	延べ156人
	歌謡教室	24回	延べ168人
半田文化祭（作品展示・舞台発表）約100人参加			

6. 活動の詳細

(1) 仁江文化センター		
生花教室 生花の技術習得	毎月1回	生花を通じて教養・文化の向上を図るとともに、交流を深めた。年間12回 延べ60人
(2) 埴生文化センター		
生花教室 生花の技術習得	毎月第2・4木曜日	生花を通じて教養・文化の向上を図るとともに、交流を深めた。年間24回 延べ120人
書道教室 書道の技術習得	毎月第2・4土曜日	書道を通じて教養・文化の向上を図るとともに、交流を深めた。年間24回 延べ168人
(3) 半田文化センター		
第22回半田文化祭 文化祭を通じて、各地域の文化の発表や展示を行い交流を深める。ステージ発表、作品展示、工作教室	平成22年11月21日(日)	ステージ発表や作品展示、工作教室などを行ったことにより、各地域の交流が深まり、人権意識の高揚につながった。延べ100人
生花教室 生花の技術習得	毎月1回木曜日	生花を通じて教養、文化の向上を図るとともに交流を深めた。年間12回 延べ50人
書道教室 書道の技術習得	毎月2回金曜日	書道を通じて教養、文化の向上を図るとともに交流を深めた。年間24回 延べ156人
半田歌謡教室 歌のうたい方の習得	毎月2回木曜日	歌を通じて心のケアや交流を図ることができた。年間24回 延べ168人

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

住民のニーズにあった講座を開催した。今後は文化センター運営審議会の審議内容等により事業展開をはかる。

【参考】過年度の評価

■平成22年度の所属長評価

交流促進講座の開設等、館長会議を中心に議論し今年度設置された文化センター運営審議会の審議内容により今後の展開を図る。

■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
交流促進講座の今後の方向性について会議を行った。
- ②当該事業のアピール事項
講座を通じて人権問題解決の早期解決に努めた。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
住民のニーズにあった講座の広域的な展開が必要である。